

第 21 回 発電用設備規格委員会 材料専門委員会 議事録

1. 日 時: 2013 年 11 月 25 日(月) 13 時 30 分～17 時 00 分

2. 場 所: 日本機械学会 第 3・4・5 会議室

3. 出席者: 委員総数 19 名中、出席者 19 名(代理 0 名)、欠席者 0 名

高橋(電中研)、木村(NIMS)、山田(中電)、増山(九工大)、浅山(JAEA)、伊勢田(新日鐵住金)、
木原(ﾊﾞｽﾏﾃﾘｱ)、三枝(電中研)、澤田(NIMS)、榎木(日鉄住金テクノロジー)、田中(日本製鋼所)、
中城(東芝)、藤森(日立 GE)、南(NKK シームレス鋼管)、朝田(三菱重工)、齋藤(三菱重工)、安田
(原安進)、伊藤(IHI)、井手(東電)

代理人:なし

欠席者:なし

オブザーバー:村上(パブ日立)、船田(JNES)、齋藤(原安進)

事務局:小沢

4. 配布資料

資料材 21-1	第 20 回材料専門委員会議事録(案)
資料材 21-2-1	材料専門委員会委員名簿
資料材 21-2-2	材料専門委員会委員出欠状況等
資料材 21-2-3	材料専門委員会新材料規格化分科会名簿(案)
資料材 21-2-4	材料専門委員会材料規格統合化分科会名簿(案)
資料材 21-3	第 66 回発電用設備規格委員会議事録(案)
資料材 21-4	材料専門委員会 課題対応一覧(Tracking List)
資料材 21-5	規格委員会での「資料の取り扱い内規案」の各専門委員会での書面投票結果(改訂1)
資料材 21-6	「補足倫理規定」書面投票結果と御意見への回答案
資料材 21-7-1	「材料事象の解説」規格委員会投票意見と回答
資料材 21-7-2	流れ加速型腐食関係修正案
資料材 21-7-3	発電用設備規格関連の材料事象の解説
資料材 21-7-4	損傷機構の文献に関する Eメールの写し
資料材 21-7-5	A-205(冷間加工による硬化)、A-209(鋭敏化)修正案
資料材 21-7-6	A-211.2 に対する吉田委員の保留意見と宮口副委員長の保留意見に対する回答案
資料材 21-8-1	火 STPA24J1 系鋼と火 SCPH91 鋼の許容値等の見直しについて
資料材 21-8-2	改良 9Cr-1Mo 鋼鋳物材(火 SCPH91)のクリープ破断特性検討結果
資料材 21-8-3	火 STPA24J1 系鋼のクリープ破断強度の見直し

5. 議事内容

(1)開会

委員総数 19 名中、出席 19 名であった。出席者は委員総数の 2/3 以上(13 名以上)であり、本委員会は成立することを確認し、高橋委員長が委員会開催を宣言した。

出席者が自己紹介を行った。

(2) 議事次第確認

議事次第(案)と配布資料を確認し、議事次第(案)記載の配布資料に8件(21-2-3、21-2-4、21-7-3、21-7-4、21-7-5、21-7-6、21-8-2、21-8-3)追加した。

(3) 議事録(案)の確認【材 21-1】

第20回材料専門委員会の議事録(案)の確認を行い、議事録案は承認された。

(4) 委員委嘱関係【材 21-2-1、21-2-3、21-2-4】

井手委員選任が規格委員会です承されたことが報告された。

村上氏(パナソニック)の委員選任が委員全員の賛成です承された。

新材料規格化分科会名簿案【材 21-2-3】のNo.11に屋口 正次氏(電中研材料科学研究所構造材料領域)を追加した名簿案が承認された。

材料規格統合化分科会名簿案【21-2-4】が承認された。

新材料規格化分科会は木村副委員長が、材料規格統合化分科会は山田幹事が中心となって次回材料専門委員会までに分科会三役候補、活動計画等をまとめることとなった。

(5) 規格委員会報告【材 19-3】

第66回発電用設備規格委員会議事録(案)の材料専門委員会関連部分が報告された。

6. 審議事項

(1) 材料専門委員会課題対応一覧(Tracking List)【材 21-4】

以下の5課題が審議未了であることを確認した。

RQ09-C2-002: (増山)材料事象に関する解説(非強制規格)

RQ09-C2-003: (増山、木原、齊藤、田村、山田、伊藤、(石毛))既存設計規格の中の材料関連事項の見直し

→ 本件は材料規格統合化分科会にて検討することとなった。

RQ10-C2-001: (高橋)デジタルデータ提供の手順

→ 本件は新材料規格化分科会にて検討することとなった。

RQ12-C2-001: (木村)ファイル共有機能の運用ルール

RQ12-C2-002: (山田)発電用原子力設備規格 材料規格の特別要求事項に関するレビュー

→ 本件は材料規格統合化分科会にて検討することとなった。

(2) 資料の取り扱い内規案書面投票結果対応について【材 21-5】

齋藤氏(原安進)より規格委員会傘下の各専門委員会での書面投票結果とその対応案についての説明がなされた。

核融合専門委員会で1票の反対意見、原子力専門委員会/材料専門委員会/核融合専門委員会から各1票の保留意見が出されている。

対応案での大きな修正は、資料入手の第三者から誓約書【材 21-5 の別紙】を取ることである。

材料専門委員会としてはこれくらいの管理は必要で、別紙に他の第三者に資料を渡さないこと、使用目的を追記することの意見が出された。

本件については規格委員会幹事会にてもう少し議論した後に各専門委員会での再書面投票となるとの見通しが示された。

(4)「補足倫理規定」に対する書面投票結果と意見対応について【材 21-6】

事務局小沢氏より規格委員会鈴木委員の反対意見対応と材料専門委員会高橋委員長の賛成意見対応を中心に説明がなされ、材料専門委員会として了承することとなった。

(5)「材料事象」(RQ09-C2-002)の規格委員会書面投票結果への対応について【材 21-7-1,2,3,4,5,6】

参考文献の充実に係る修正【材 21-7-5】は編集上の修正とすることが了承された。

吉田委員の反対意見(p)(q)対応(担当:藤森委員)、【材 21-7-2】、【材 21-7-6】の三件について材料専門委員会での再書面投票を行うこととなった。

ただし、【材 21-7-2】の A-600 修正前の記述(インペラ等に関するもの)を修正後の記述の後に記載し、A-601.2の火力のAVT / OTに関する記載を見直し、修正前のA-605の記述はA-705(環境疲労)へ移動させることとなった。

意見対応案【材 21-7-1】のブラッシュアップは三役にて行い次回専門委員会にて確認することとなった。

(6)火 STPA24J1 系鋼と火 SCPH91 鋼の許容値等の見直しについて

木村副委員長より【材 21-8-1】に基づき 11/26 に開催予定の火力専門委員会にて了承されれば本件を火力専門委員会から材料専門委員会へ検討依頼する予定であるとの説明がなされた。

引き続き、【材 21-8-2,3】に基づき齋藤委員より火 SCPH91 / 火 STPA24J1 系鋼のクリープ破断強度見直しの必要性に関するプレゼンが行われた。

本件は、新材料規格化分科会のケーススタディ案件として検討していくこととなった。

7. 次回開催予定

日 時:2014 年 2 月 24 日(月) 13:30-17:00 (予定)

場 所:日本機械学会第 1 会議室

以 上